

令和 6 年度 学校評価報告書 1 (計画段階 ・ 実施段階)
いずれかを○で囲む

学校名		福岡市立 福岡女子 高等学校	学校経営方針・学校教育方針		今年度の重点目標		評価 (総合)	
学校長	ふりがな	おおす りゅういちろう	1 教育目標 教育基本法の精神に則り、急速に進展する国際化・情報化などの社会的変化に対応し、生涯にわたって主体的に生きるための人間力を培う。 2 めざす学校像・生徒像 【学校像】相互に認め合い高め合う温かい信頼関係の中で、安心して個々の個性や能力を最大限に発揮しチャレンジすることを通して、豊かな心と未来を生き抜く力が育まれる学校 【生徒像】自他を重んじ、生涯にわたって主体的に生きるための人間力を身につけた生徒 3 スクールポリシーに基づく取組の推進 校内での共通理解、共通実践とともに、中学校への広報や個別の説明等に努め、スクールポリシーの浸透と実現にアプローチする。		1 本校独自の特色化・魅力化の推進 各学科の在り方及び魅力化に向けた検討を深め、その具体化を図る。 【家庭科】社会の変化に対応し、衣食住、保育、介護などのヒューマンサービスに関わる生活産業のスペシャリスト育成に資する学科の在り方やカリキュラム等の検討を進める。 【国際教養科】アジアのリーダー都市に相応しい国際感覚に富む人物の輩出をめざし、帰国生徒の受け入れや姉妹校交流、海外語学研修などを通して、グローバル社会で活躍できるスペシャリスト育成に資する学科の在り方やカリキュラム等を検討を進める。 【普通科】急速に進展する国際社会・情報化社会などの社会の変化に伴って変容する生徒の進路希望に対応していくため、看護進学コース及び普通コースの充実を図るとともにその在り方やカリキュラム等の検討を進める。 2 キャリア教育の充実と男女共同参画社会で活躍できる人物の育成 ・キャリア教育融合型総合的な探究の時間の充実 3 人権教育の推進 ・組織的ないじめの未然防止 ・互いの人権を尊重し合う学校づくり		学校自己評価	学校関係者評価
	氏名	大洲 隆一郎					B	B
校長本校在籍年数		3年					B	B
学校関係者評価委員会委員長	ふりがな	あんの まさとし						
	氏名	阿武 正俊						

昨年度の成果と課題	・観点別評価の校内研修による指導と評価の一体化に向けた授業改善と授業力向上の取組を推進してきたが、全学年での実施をうけさらに研修に取り組んでいく。 ・各学科の専門的な学びや多様な進路実現をめざすため生徒の実態を踏まえつつ、主体的な学びが実現できる地域との連携プログラム等を活用したカリキュラムの見直し、検討を行う。
-----------	--

評価項目	目標及び具体的な方策等		学校自己評価	取組状況・成果・課題	学校関係者評価	学校関係者評価委員会からの意見等	今後に向けての方針・改善点
	目標	具体的な方策					
教育課程・学習指導	ICTを活用した学習指導・観点別評価の一体化に向けた授業改善と校務の効率化の推進	職員間の情報共有におけるICTの活用や、校務支援システム・自動採点システム等の活用を促進することにより校務の効率化を推進する。 ICTの活用に関する研修や授業研究研修などの充実を図り、指導と評価の一体化による授業改善を推進する。	C B	自動採点システムや校務支援システムの運用については年度当初等に研修を行い、電子黒板の導入やAppleクラスルームの活用など新しい内容については冬季休業中に研修を実施するなど、研修機会を多く設けて周知を図った。また、中堅教師の授業参観を通してICT活用だけでなく、観点別評価の見取りについて研修を深めた。	B	・ICTの活用など先生方の働き方改革につながる取組は今後も求められる。生徒に対応する時間の確保のために、校務の効率化の推進を今後も継続して図ることが求められる。 ・観点別評価について、研修などにより先生方の共通認識を持ち、授業改善を図っている点は評価できる。カリキュラムマネジメントを実施するという観点で、評価を活用し、年間指導計画を見直すことに積極的に取り組んでもらいた	・電子黒板などの新しいICT機器の活用を、職員間で共有していくことで校務の効率化を図るとともに、授業における効果的な活用を推進し授業改善につなげていく。 ・学校改革などの新しい取り組みを推進していくために、情報共有が大切となってくる。そのために今後も研修を適宜行い、共通認識を持ちながら、観点別評価や授業改善を推進していく。
	新学習指導要領にもとづくカリキュラムマネジメントの実施と観点別評価の円滑な運用	定期的な教科ごとに調査等の評価をもとにした検討を行い、カリキュラムマネジメントを実施する。 観点別評価の研究を教科ごとに行うとともに、校内研修などにおいて情報共有を行い運用する。	C B	観点別評価の完成年度にあたり、改めて学習指導と観点別評価の関連性について研修を行い職員の共通認識を高めることができた。その結果、年度当初の定期考査計画を見直し、生徒にとって学びやすい評価計画への変更をする教科が見られた。	B	・不登校の生徒は、校種に関わらず増えている。社会情勢としても、登校だけがすべてではないという考えが広がっている。生徒自身は、いろいろと悩んで選択をしているので、今後も生徒に寄り添った指導が求められるのではないかとと思う。そのためにも、SCやSSWや外部機関と連携した取り組みを継続するとともに、アンケートなどによる生徒の状況把握に努めていくことが大切である。	・不登校生徒への対応は、個別の状況を的確に把握することが必要である。教育相談委員会を中核として、各分掌と情報収集・共有を行い、迅速かつ適切な対応となるよう校内及びSC・SSWとの連携を強化していく。 ・生徒の状況把握において、定期的なアンケートは有効であった。今後もアンケートの内容等見直ししながら継続していく。
生徒指導・人権教育	いじめ・不登校・中途転退学等の諸課題に対する組織的対応の充実	保護者、学校外の諸機関等との連携を積極的に行い、生徒支援につなげる。 SCやSSW、通級指導教員等との連携を強化するとともに、円滑な情報共有を行う校内生徒支援体制の更なる充実を図る。 いじめの未然防止のための研修を充実させるとともに、各学期のアンケート等により情報を収集し、早期対応に努める。	B B C	今年度は、毎週の定例会議以外に毎週教育相談事務局会を実施したため、校内での情報共有やSC、SSWとの連携も深まった。校外の児童相談所や社会福祉協議会との連携も積極的に行った。 いじめの未然防止のために、毎月実施した「生活実態アンケート」や「学校生活アンケート」を活用して早期対応に努めた。その結果、保護者を含めた面談や、個別のケース会議など多忙であったが、生徒たちの学校生活の継続に一定の効果が見られた。	B	・本校は令和9年度には共学化となるが、いろいろな立場の人に思いをはせる取組が必要である。特設授業だけでなく、共学化に向けた取り組みにおいて、生徒など様々な立場の意見を取り入れていってほしい。	・人権課題は、社会的な情勢などによっても変化していくため、現在学ぶべき課題を探りつつ、事前研修などにより教職員の見識を深め、より質の高いものとなるように推進していく。
	豊かな人権感覚の醸成と一人ひとりを大切に作る学校づくり	質の高い特設授業をめざし、生徒の実態に合わせたものとなるよう教材や講話を研究し、充実した授業への取組を事前研修等を通じて全職員で推進していく。 現代における人権課題やアンケート等により把握した生徒の課題を取り入れた特設授業を実施するとともに、人権意識の向上を図る指導を適宜行う。	C B	特設授業が講演の場合には、講師の方に事前研修会に参加していただき教員の見識を深めることができた。また、従来は外部講師に依頼していた特設授業を、1学年と3学年で1回ずつ担任の手作りの授業に変えることができた。授業を計画するにあたっては、現代の人権課題やアンケートで把握した課題等を含める工夫をした。これらの取り組みは、教員と生徒の人権意識の向上に役立った。	B		
進路指導	生徒の進路実現への意欲と意識を高める系統的・発展的なキャリア教育の推進	ガイダンスなど進路に関する行事を学年と連携して行うとともに、生徒の状況の把握のために面談を実施し、進路希望の実現を図る。 進路実現に主体的に取り組む意識の涵養を図るために、キャリアパスポート（プログレスノート）の見直しを行う。	B B	進路意欲の向上のため各学期に生徒との面談を計画・実施した。進路指導担当教員が直接対話することにより生徒からは頑張ろうという表情がうかがえた。進路行事は計画どおりに実施することができた。 学習の記録としてキャリアパスポートと合わせて、総合的な探究の時間のファイルを作成し、デジタルで管理させるようにしており、3年間を継続したキャリアプランの形成に役立っている。	B	・保護者が進路に関する情報を得るための手立てとして、デジタル求人票は活用できる。保護者もお子さんと進路について話合うために、変わっていく大学入試制度などについて情報共有していくとよいのではないかとと思う。	・地域と連携した取り組みなどを記録していくために、今年度キャリアパスポートの見直しを行った。進路学習においてもキャリアパスポートの効果的な活用を検討していく。
	生徒の進路実現に向けた進路指導体制の充実	生徒の情報や進路に関する情報の共有を各担任と行うなど進路指導の充実を図る体制を構築する。 デジタル求人票の活用や進路の手引きの配信など進路情報のより効果的な提供方法を講じる。	B C	年々変化する入試制度の把握や情報提供のため、朝礼後の打合せに積極的に参加するなど、3年担任団と緊密に意思の疎通を図った。 求人票などの進路指導部からの発刊物はすべてデジタル化した。事務作業が大幅に削減でき、生徒への効果的な情報提供ができていく。	B		・デジタル求人票などデジタル化を推進してきたことを踏まえ、生徒の実態に即した指導や情報提供の仕方を工夫し、生徒の進路実現に向けた意識の涵養を図っていく。また、進路指導部と学級担任や保護者との連携を強化するとともに、個に応じた指導を進めていく。
魅力ある高校教育の推進	生徒の主体性を育む教育活動の推進	課題研究や総合的な探究の時間などにおいて、地域・企業・行政等地域と連携した教育活動の更なる充実を図る。 委員会活動の活性化、生徒会および各クラスの実行委員による学校行事等の取組の充実を図る。 校則の見直しにおいて、生徒が意義を理解し守ろうとする校則をめざし生徒と教員とが意見交換などをするよりよい組織づくりを推進する。	A B C	サワライズグループや能古島をはじめとした地域企業や福岡市および西区役所等の連携を強化し、地域課題を中心としたPBLを進めることができた。また、希望生徒による活動として、西区青年会議所や西新商店街によるイベントの企画実施に参加した。体育祭や文化祭の運営において生徒会役員および各クラスの実行委員が中心となり活動することができた。今後も様々な教育活動の場面で生徒の主体性を生かしたものとなるよう工夫する。	B	・教育活動の成果が伝わらずもったいないと思っていたが、志願者増加につながる取組ができていくと思う。 ・生徒が生き生きとしている。生徒たちの主体性を感じる。 ・インスタグラムは、頻繁に更新されていてとてもフットワークがよい。 ・インスタグラムは、トップ画が一枚に完結されていてよい。訴求ができていく。写真もいいので、さらに生徒の生の声をあげていくと、さらに学校の様子が伝わる。行事などは、準備の様子をタイムプラスでみせていくと面白い。来年度は、100周年としての企画を考えてはどうか。	・学習活動における地域と連携したPBLをさらに推進し、生徒の主体的な学びを育てていく。希望生徒を対象としたもの、学年や学科を横断的に組織するものなどさまざまな形態での活動を検討していく。 ・学校行事など様々な教育活動において生徒が主体的に取り組むことができる工夫を継続して行っていく。
	教育活動の魅力と特色を効果的に情報発信する広報活動の実施	本校の魅力を地域や保護者等に広く伝えるため、SNS等のコンテンツを工夫し情報発信の充実を図る。 学校訪問、体験入学等を通じた中学生および保護者等への情報発信の更なる充実を図る。	A B	Instagramを活用し、中学生を中心に多くの方へ情報発信を行うことができた。本年は特に週2回ペースで情報発信ができたことで、フォロワーも目標の1000を大幅に超える1779を達成している。100周年記念事業としてホームページも刷新し発信力を強化できた。	B		・今年度刷新したHPや充実させたインスタグラムの活用を推進していく。中学生や保護者を中心に本校の教育活動の様子が伝わるようSNSに加え、情報発信の在り方も検討していく。

※ 学校自己評価は、5段階評価(A…目標を大幅に上回る達成度,B…目標を上回る達成度,C…目標どおりの達成度,D…目標を下回る達成度,E…目標を大幅に下回る達成度)で成し。
 ※ 学校関係者評価は、学校自己評価について5段階評価(A～E)で評価すること。